論文内容要旨

Developing a Japanese version of ‘the Scale of Attitudes Toward Pharmacist–Physician Collaboration’
（Scale of Attitudes Toward Pharmacist-Physician Collaboration 日本語版の開発）

病院薬剤学講座　北原加奈之

内容要旨

【背景および目的】
医師、薬剤師、看護師等の職種間連携により、患者アウトカムを改善したとの報告が多数ある。諸外国では、職種間連携の程度を評価するために、様々な職種間連携尺度が開発され、多くの国で用いられている。SATP²C（Scale of Attitudes Toward Physician-Pharmacist Collaboration）は、医師と薬剤師の関係だけでなく、医学生と薬学生の関係にも適用することができる。そこで、学生・医療専門職双方に適用可能な評価ツールであるSATP²C をわが国で用いるため日本語版を作成し、本邦において適用可能かを検証することを目的として本研究を行った。さらに、作成した日本語版 SATP²C を用いて、本邦の職種間連携教育（IPE）が医師、薬剤師の関係性に及ぼす影響を評価した。
【方法】
順-逆翻訳法により SATP²C の日本語版を作成した。SATP²C 日本語版の信頼性は、昭和大学に勤務する医師 21 名、薬剤師 62 名を対象とし、Cronbach α と級内相関係数を算出して評価した。妥当性と反応性は、医学生 25 名、薬学生 29 名を対象とした。妥当性は The Readiness for Interprofessional Learning Scale（RIPLS）を対照として基準関連妥当性を評価した。構成概念妥当性は多特性・多方法行列分析法により解析し、収束的妥当性、弁別的妥当性を算出した。反応性は、5 日間の IPE の実施前後で SATP²C スコアの変化量を測定した。
【結果】
信頼性の評価において、下位尺度ごとの Cronbach α は、Responsibility and Accountability が 0.79、Shared Authority が 0.68、Interdisciplinary Education が 0.67 と、すべて substantial の判定であった。妥当性の評価において、基準関連妥当性、構成概念妥当性ともに、基準を満たした。反

応性は、IPE の前後で「Interdisciplinary Education」のスコアが 0.3±0.2 と有意に上昇した。SATP²C の合計スコアは 1.2 ± 0.7 と上昇していたが、統計学的な有意差はなかった。

【考察】

今回作成した SATP²C 日本語版は、信頼性と妥当性が示された。一方、反応性は３つの下位尺度のうち、２つで有意な上昇がみられなかった。反応性が検出されなかった要因として、被験者のベースラインのスコアが高かった点、IPE の実施期間が５日間と短かった点が関連している可能性がある。本研究の限界点として単施設で行った点が挙げられる。

今回開発した SATP²C 日本語版を、研究の限界点に留意し活用することで、これまで実施することができなかった我が国での臨床教育の施設間比較や国際比較が可能となると考えられた。